

## 電子カルテ共通化へ

### 京大病院と京都府立医大病院

京大病院(21科、1182床)と京都府立医大病院(26科、1065床)で、それぞれの病院で受けた検査結果や処方薬を共通の電子カルテに記録し、両病院で利用できるサービスが年明けにも始まる。これほど大きな病院同士の連携は例がなく、検査や薬の重複を防ぎ治療を効率化できる利点も大きい。両病院は、他の医療機関にも参加を促し、誕生から死亡まで全診療内容を網羅した人生涯カルテの実現を目指す。

京大病院は、会員登録した患者1500人分の検査結果や処方の内容、診療の要約、手術記録などの電子カルテを作成。データを、2007年7月から、診療情報共有システムに登録している。府立医大病院も、同じシステムに参加。来年1月から共通カルテの会員を募集し、半年後に本格運用する予定。情報は検査と処方履歴だけが、同じ患者が両院で受けた診療内容が時系列で記録され表示できるようになる。

共通カルテは、患者がパソコンや携帯電話で見て、日々の症状を書き込み、両院でチェックすることも可能。また患者が希望すれば他の病院での診療でもデータを利用できる、所定欄に診療結果を書き込める。